

浄空院 東松山市 所在



太高山浄空禅院とある





太高山浄空禅院とある



太高山浄空禅院案内図





正面の道を進む





山門







徳川家旗本の菅沼越後守定吉が開基となって現在の諸堂が建立されたという



浄空院の本堂と裏門

浄空院は約千五百年前、徳川家旗本菅沼越後守定吉の開基による。聖徳太子の御本願と称し、天竺から持ち込まれた。元龜、天正の頃、徳川家旗本菅沼越後守定吉の開基による。現在の諸堂の建立は、昭和五十五年三月、菅沼越後守定吉の御本願と称し、天竺から持ち込まれた。浄空院にあっては、徳川家旗本の菅沼越後守定吉の開基による。

本堂

諸堂物の中央にあり、徳川家旗本菅沼越後守定吉の開基による。立や彫刻に興味が深い。菅沼越後守定吉の開基による。歴代は、菅沼越後守定吉の開基による。

裏門

古き(關口)開基(菅沼越後守定吉)の開基による。母とある。菅沼越後守定吉の開基による。に改修された。菅沼越後守定吉の開基による。

は訪れる者に郷愁を似た落着きを感じさせます。特に奥の寺院等には禅寺に珍らしく武者隠しの備えが工夫されています。

禅堂

差異き屋根・黒の太杉幹、壁や障子の白で構成された建物で、本堂を中心に裏門と相対して建ちました。この堂は以前一つの御堂であったが昭和四十三年に改装されました。朝夕の寺院関係者らの参拝のほか、昭和四十四年には菅沼定吉の参拝道場として認可も得、同時に約百人が参拝し、込みで参拝供養が受けられるようになっていきました。

裏門

堂々の四つ足門で、棟柱や古木をもち、長い風雪を物語る禅寺特有のわがさながにじみ出ています。おぼろしく創建当時のものであろうと思われます。

昭和五十五年三月 東松山市教育委員会

文化財を大切にしましょう













正面が本堂



振り返って山門を見る



市指定建造物 浄空院本堂・庫裏・禅堂・裏門とある



本堂/1753年建立



















転用材置き場



妻側







右手奥が本堂、左手は庫裏



正面奥が本堂、左手は庫裏



坐禪堂













座禅堂の裏手



座禅堂から鐘楼を見る







正面は庫裏







廻り込んで庫裏を見る





更に廻り込んで庫裏を見る





正面は庫裏、右手は本堂



庫裏の裏手



裏門(建て替えられているようだ)



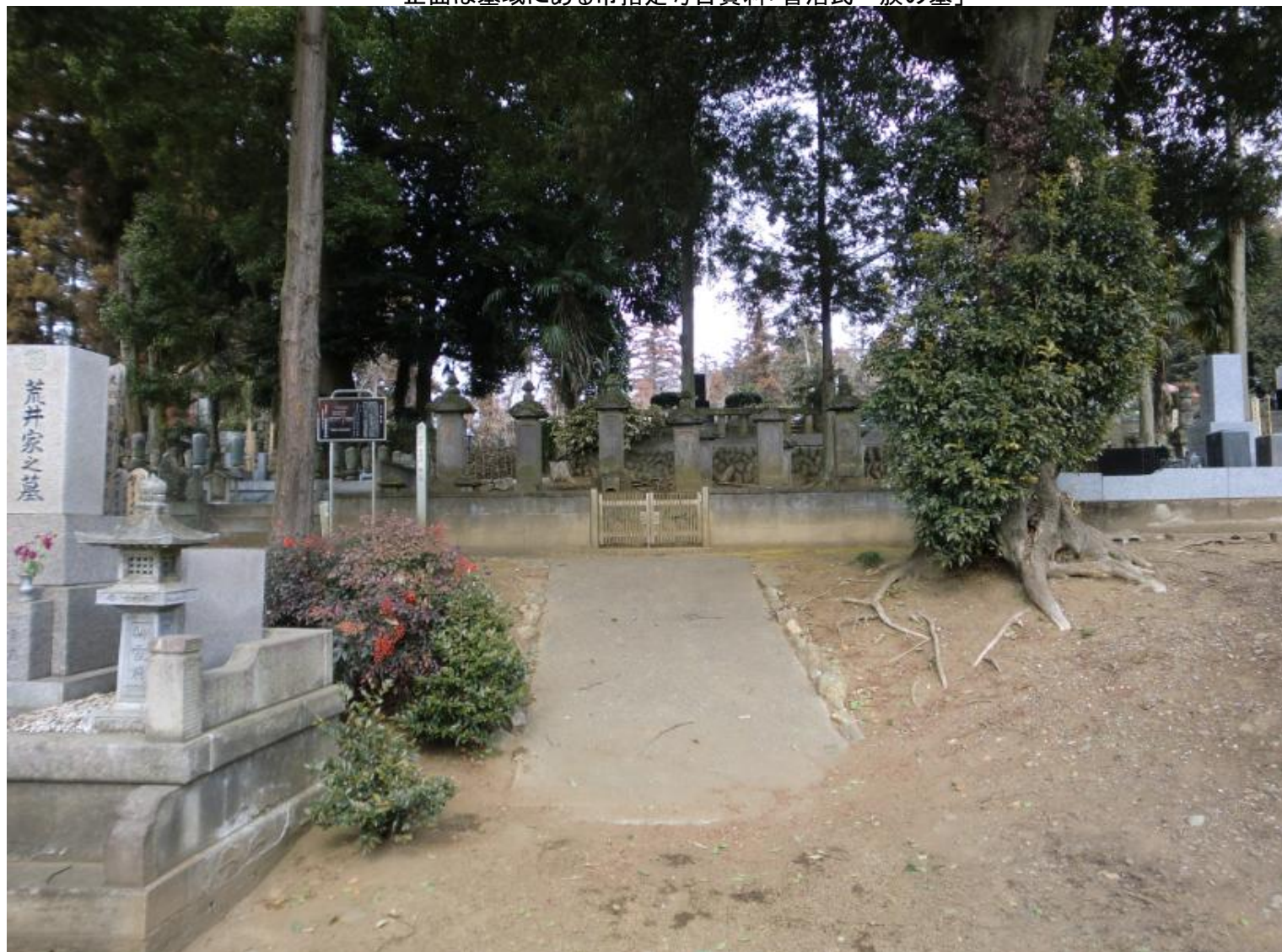


近くの神社





正面は墓域にある市指定考古資料「菅沼氏一族の墓」





菅沼氏一族の墓

昭和五十五年一月十日市指定有形文化財

この墓は浄空院開基定吉公を初代とする領主菅沼家一族のもので、室町時代三河の豪族菅沼一族は島田、田原、野田、長原の四家がわたり、いづれも始祖を長長とする同族で、浄空院を菩提寺とする菅沼家は、このうち田原の菅沼家です。定成、その子定吉のとき、家原とともに開東へ来た菅沼の旗本ですが、定吉公はこの唐子の地が菅沼家領地のほぼ中心で、江戸城との交通の要所でもあり、また法善寺のわたりなどから、この地は菩提寺を建立したのです。

家原とともに江戸城に入った定吉公は家原より米地（領地）三〇五〇石を給わり、そのうち大御番の頭となった。二代定俊の時米地を長兄定政と弟定勝（うち一〇二〇石）に分けたが、同じ田原の菅沼として菩提寺は浄空院を代々の墓地としました。

系 図



菅沼氏の基石配置図



注 ①は基石を調べたときの通し番号、名前右肩の数字は定政家の代を表わし、下のは定勝家の代を表わす。

昭和五十四年三月
文化財を大切にしましょう
東松山市教育委員会





これが菅沼越後守定吉の墓







さまざまな造形







参考ホームページ

<http://www.asahi-net.or.jp/~CN3H-KKC/tera/tera203.htm>



・日本・埼玉県

